



平市の俵米共販値 前回に比し安保合

最高(飯野)十二圓九十八銭 最安も飯野の七十九銭

石城郡販賣昨二十一日の俵米定期共販は昨報の如く總出荷一五〇五俵(内大麥七)に達し米商その他二十餘名の競争入札の結果は左記の如く最高十二圓九十八銭(飯野倉庫二號)最低十二圓七十九銭(飯野一號)の相場であつたが前回に比すれば十三圓突破の飛値もなく安保合ひを示した、尙ほ止札に至らず不調となつたもの百三十六俵で千三百六十九俵を取引され大麥は五圓十五銭と稱する馬鹿安のためこれも不調となつた

戦傷勇士

石城郡出身者 徐州大會戦に於て飯島部隊に屬し活躍された勇士の中名譽の負傷をなせる石城郡関係者左記を發表された

傷病兵通過

支那事變の傷病兵二十六名今二十二日午後一時五十分列車で平野通過したので市及び市内各種団体代表者がホーAに送迎懇ろに慰問をなす

戦地 戦時衛生勤務中の の便 論文執筆に有之候

磐中出身 諸橋鐵彌

(前文省略)愈々御清榮賀上候、陳者今般中同窓會より大國魂神社の御守護御送與被下向よりの賜と感謝に堪えず厚く御禮申上候、降て小生もお蔭にて引續き元氣にて勤務いたし居り候只今は大戦闘無之ため小生等の職務は閑散にて専ら待機の姿勢に候、大分〇〇部隊の噂も聞及び候得共我々はまだ〇〇〇〇〇〇相成らずと存じ候、閑に任せ戦時衛

平市参事會

平市では来る二十五日午後一時から参事會を開き来る七月

Table with 2 columns: 日刊 (Daily) and 日誌 (Journal). It lists various dates and events, including '日刊' on the 1st, 2nd, 3rd, 4th, 5th, 6th, 7th, 8th, 9th, 10th, 11th, 12th, 13th, 14th, 15th, 16th, 17th, 18th, 19th, 20th, 21st, 22nd, 23rd, 24th, 25th, 26th, 27th, 28th, 29th, 30th, 31st and '日誌' on the 1st, 2nd, 3rd, 4th, 5th, 6th, 7th, 8th, 9th, 10th, 11th, 12th, 13th, 14th, 15th, 16th, 17th, 18th, 19th, 20th, 21st, 22nd, 23rd, 24th, 25th, 26th, 27th, 28th, 29th, 30th, 31st.

識講

レボリニシヨンは改革とか革命の意だ、レボリニシヨニストは革命者、革命論者でレボリターなら革命、連綿の路で無産階級解放運動の連絡通信を云

敵の最後の足掻き

磐中出身 渡邊力男

謹啓、時下初春の候高堂愈上御清邁の段奉賀候、陳者今回は御鄭重なる御慰問状並に吾等に最も感銘深き蘇社大國魂神社の御札御送付下され厚く御禮申上候、御蔭を以て無事軍務に服し居り候間何卒御放念下され座候、今や蔣政權も最後の足掻きを致し居り候、吾等は諸賢の御期待に副ふべく努力する覚悟に御座候、先は陣中亂筆ながら御禮申上度如斯御座候、頓首、

赤十字支部の 兒童保養所

安達の嶽温泉に 赤十字本縣支部では今夏季の八月三日から十六日に至る十四日間各校の虚弱兒童百名の希望を募り安達郡下村嶽温泉安達館に右兒童保養所を開設の筈で来る七月十五日限り申込みを取ることになつたが希望者は金七圓の所費を以て簡食まで給與されると

煙草耕作協議

石城郡に於て明十三年度から煙草耕作の計畫を立てつゝあるは屢報の如くであるが来る二十六日午前九時から平市會議事堂に關係町村を會し同耕

上三坂に傳貧

今日再診で決定 石城郡三坂村の上三坂草野萬太郎所有飼馬十五才草殖化鹿毛一頭が赤馬組合三森技手によつて行はれた此の傳貧定期検査で疑似、診られ既外曳出禁中であつたが今二十一日再診の結果眞症と決し近く殺処分を行はれると

無錢飲食男

二十四圓を喰ひ 山形縣南村山郡田村生れ當時住所不定無職金子常松(五七)は去る二十日夜九時頃石城郡湯本町の三嶽温泉旅館備中屋事島崎三五郎方に投宿し茨城縣多賀郡日立山元山五六號長原労働者募集係職員福田政太郎(五七)と詐稱し所持するが如く装ひ整潔な酒肴を命じ藝妓を招きて二十四圓四角餘相當の遊興をなし二十一日夜に及んで一文なしと判り無錢遊興で平署に檢舉取調中だが同人は去る五月中旬宮城刑務所を出たばかりの窃盜詐欺その他前科十三犯の男である餘罪取調中

債券賣に疑ひ

平署の取調中 石城郡磐崎村方面を去る十四日以來債券の賣買を勧誘する男の口辭に時局を利用する嫌ひがあるため平署に於て同人を檢舉取調中であるが現住本縣若松市片柳町四四北海道札幌市日本證券會社の外務員三原近(三三)と稱し同村左記四名に額面二十圓の勸業債券を十三圓で賣ると稱し約束と同時に保証金二圓を收受してゐるが債券は本署に保管するものゝ如く尙ほ賣渡す債券は數年にして額面の金が手に這入るものと唱ひたる由を買受側から語られて居り平署で

千葉彦治氏

平市振興小路辯護士千葉彦治氏は病氣療養中であつたが藥石効なく今二十二日午前一時遂に逝去した同氏は宮城縣遠田郡北浦村の産直輔氏長男で、大正三年中央大學法科卒後母校の編輯部長となり同八年辯

報國貯蓄に 平の協議

各種の實施事項 支那事變は今や第三の段階に入り帝國が其の所期の目的を貫徹するために要する本年の國民貯蓄運動の一大運動を起し全國一齊に六月二十一日より同二十七日に至る一週間を國民精神總動員貯蓄強勵週とて設定し之を強調せらるゝこととなれり本縣に於ては政府の方針を体し本運動の實効を擧げんことを期し本月十三日國民精神總動員福島縣實行委員會を開き其の答申に基き本縣に於ける獎勵運動要綱別記の通り定められたり本市また國策に順應し其の目的達成の爲め關係各位の會同を煩はし親しく之が實行方法を協議せんとす何卒本運動の趣旨を諒せられ之が普及

護試験に合格東京、仙台を経て平市に開業以來十八年に及び苦學力行の人であつた、同郷親睦に盡し行年四十七に他に深き理解と同情を持ち才の早逝を惜まれてゐる

父千葉彦治儀豫而病氣の處藥石効なく本日午前一時死去候に付此段謹告仕候
追前二十三日茶匙に附し告別式は二十四日午後一時より二時迄平市長橋町性源寺に於て執行仕候、
猶時局柄花輪放鳥等は堅く御辭退申上候
昭和十三年六月二十二日
平市字振興小路一番地
長男 直彦
新威總代 栗野鶴助
友人總代 大原忠助
山田勇太郎

當會長辯護士千葉彦治殿本日午前一時死去せられ候に付此段謹告仕候
昭和十三年六月二十二日
仙台藩郷友會

徹底と其の實績を擧ぐる精神配慮相成たし、
國民貯蓄獎勵運動方法
一、縣に於て實施するもの
(1)各種會議、會合等に於て趣旨の普及を圖ること、
(2)國民貯蓄に關する講演、映畫會を開催すること、
(3)各方面に對し協力方を依頼すること、
(4)宣傳資料を頒布すること、
と其の他、

絹糸

絹毛混織用の
多糸量蠶種(上)

蠶桑を給與する粗放な飼育で好成績を挙げ、支那蠶桑業の新しい出発は本邦蠶糸界に相當大きな打撃を與へつゝあり當局はこれが恒久的對策に腐心してゐるが對策として輸出先きの開拓、新用途の研究が進められ、販路として新しく印度、ドイツを開拓し用途の問題では毛、絹混織の新布地の生産を行つてゐるが、この二つの方策を通じてはゆる下級生糸の需要が増加しつゝあることが注目されてゐる、從來當局が蠶糸界に臨む指導方針はあくまで上級生糸の生産であつたが印度その他への輸出及び絹毛混織用の生糸は下級品でも間に合ふので現在この用途に向ける品種の育成、飼育法の研究が進められてゐる、そこで農林省では絹毛混織用の新多糸量蠶種を静岡、埼玉、岩手、京都、山梨、長野、群馬等の各府縣に委託飼育をさせ東京府下では南多摩郡稲城村、北多摩郡昭和三村の兩蠶養行組合に飼育させた結果は極めて良好な経過を示し五月四日掃立ての分は同月三十一日見事に上級したので收購して六月六日農林省に輸送した次ぎの七日掃立ての分も續々順々追ふて上級、成績は府獎勸品種に比べて断然よく十グラムの蠶種收購量は最高十一貫、最低九貫七百で普通種は十貫、最上級より上級まで三十日、最下級まで二十日に混織用の新種は

二十五日を要したのである。

牛も豚も優良品の自慢
肉の御 三三三屋 平市 田町
用命は 三三三屋

藤沼醫院
平市紺屋町 電五〇七

お醤油は ヤマフル
山崎合名會社
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

産科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學博士 内木宗八
外科 藥劑師 大岩俊雄
木村病院
平市新川町九一
入院隨意 病室完備

夏の帽子 麥一文字と子供帽
パラソル 二重張と晴雨兼用傘
ツルヤ 平電一四〇

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
高久病院
院長 醫學士 高久忠

債券 公債 両替 金融
多田井質店
平市大工町 電話五九一

外科一般 内臓外科
泌尿器科
北川外科
北川芳夫
醫師 三浦常保

便利で 經濟な 日下家政婦會の
派出婦を御利用下さいませ
身元確かで品行方正ですから
何をお任せしてもご安心です
日下家政婦會
電話七二三番

専門 皮膚科 泌尿器科 性病科
江尻醫院
醫學博士 江尻伊三郎
平市田町 電話六九一

病室増築、手術室完備
産科 醫學博士
婦人科 五十嵐雄二
平市新川町「電話二六九番」

大河内 整形科醫院
平市搔搦小路
電話五八八番

新時代の要求
附屬事業に等外看護婦を特設いたし
皆様の御用向へ身元確實なる婦人を
派出致します
平看護婦會
電話三〇七

經濟的な御使
宜御用命をお
願ひ致します
御手不足の御家庭
軽い御病人の付添
妊婦産婦の御家庭